

1

① ア ③ ウ ⑦ ア 2 (記述題)

3 A イ B エ C ア D ウ

4 美味なもの少量

5 炭質 ⑤ (完答) 6 イ 7 イ

8 X 不 ⑧ Y 非 Z 無

9 a 反省 ⑨ b 「無細工」も可 c 外観

d 直送 e 注文 f 毛色

2

1 X す Y そ Z げ 2 A イ B ウ C ア (2 完答)

3 イ 4 ア 5 ウ 6 ウ 7 ア 8 エ

9 (記述題) 10 いや、何と

1

2 めい季節 ② るや節毎に異なった味わ 3 自然の香りを楽しむ

2

9 人顔が覚えられな ⑨ と思正直に言うとはないか 10 心配れるし、ている。 ⑩ (同意可)

配点	
1 8・9 2 1	各2点×12=24点
1 2 2 9	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

1

本文中の語句の意味を問う問題は、当然、辞書に載っている意味とまったく異なるものは正解にならないが、文脈に合っているかどうかを確認するようにしよう。今回出題されたような和語はなかなか頭に入りにくいので、見かけたときに意味がわからなければ必ず辞書を引いておきたい。

2 問4とセットになった問題である。――線②は「近頃では、美味なものを少量というように……」に続く部分である。この「美味なものを少量」が問4の答えになっているのだが、逆に、このことはあてはまる。④の直後の文に、「季節が感じられるような野生の香り、自然な酸味、そういうものが欲しいだけである」とあり、これが問2の答えに利用できる。

3 接続詞の空欄補充は本文の空欄にあたる前に選択肢を見ておくとうよい。ア「すると」とウ「だから」はいずれも順接の接続詞なので気をつけなければならないとあらかじめ用心することができる。接続詞の空欄補充が苦手な者は、接続詞を入れて前後の文を音読するとうよい。

4 問2の記述を後回しにしてこの問4に取りかかったときに、問い同士の関連に気づくことができると、スムーズである。こうしたことは、いわばテストの受け方に属することだが、重要である。

5 指示語の問題こそ、その指示語をふくむ一文の文意を理解することが重要である。「若しそうなら、そんなものに酔い痴れては恥ずかしい」という一文である。「そう」は何を指しているのかも明らかにすべきだし、「そんなもの」が筆者にどのように評価されているかも理解したうえで、答えにアプローチしたい。字数の指定や制限がないので、慎重に過不足なくぬき出そう。

6 線⑥は段落冒頭の一文だから、段落の残りの部分がその説明になっていると見当をつけることができる。「自然が膚で感じられる」「土地自慢の……」「季節毎に異なった味わいかた」などから答えが決まる。

7 問6の解説でも述べたとおり、指示語をふくむ一文をまずは正確に理解しよう。指示語といえは直前を指していると機械的に考えるくせがあるとウを選んでしまうかもしれないが、ここで述べているのは、「私の他に飲むものがない」から「豪気な話」がないのだから、「下戸の建てたる蔵もなし」という諺にあるとおりだ、ということである。

8 X「不意」は、思いがけないようす。Z「無性に」は、むやみに、やたらに。

9 a「反省」は「反」が「友」に見えないように気をつけたい。b「不細工」は仕上がりの見た目が悪いこと。c「外観」は見た目。d「直送」は直接相手に送ること。e「注文」は「チュウ」「モン」とも同音の別字とまちがえないように注意したい。f「毛色」は種類、性質の意。

2

1 X「はすむかい」はななめ前のこと。Y「そっけない」は、思いやりあるいは愛想がないようす。Z「けげんな」は不思議に思っているようす。

2 「どきつ」と「はつと」は似ているようだが、「はつと」には、何かに気づいたという意味合いがふくまれ、「どきつ」は必ずしもそうではない。

3 「目がちよつと悪く」なったのは本当のことだとしても、前山さんに気づかなかった理由ではない。つまり、うそをついたのである。その結果として、前山さんに「不満そう」なしぐさをされている。

4 直後の文の「仲良くしたいと思ってる」の主語は「私」だから、――線②の主語も「私」である。あわてずに、――線③「思われている」が受け身であることが理解できれば、主語が変わっていないこともわかるだろう。

5 名刺に「顔の特徴」をメモすることで、名刺に書かれている「名前」の人がどういう「顔」だったか思い出せるのである。

6 「変わる可能性のある」に続く部分である。十字路で前山さんに出会った場面でも、「ページのチノパンに、紺のスウェットの女子だ。髪はボブだ」とあるように、「服」と「髪」に注目していた。

7 「新しいクラスで、人の顔が覚えられない」と母に相談していた。イは「すぐ忘れてしまい」がおかしい。名前を忘れるのではなく、「顔が覚えられない」のである。

8 「こんな私」は直前の「私はこれでいいんだろうか？」の「これ」と同じである。「なんか、いつも一人なんだよね」からつながっている内容である。直後には「何とかするんだ」とあり、「そう決心して」前山さんに話しかけているところからも答えが決まる。

9 「声がふるえた」が表す気持ちは、「ふるえた」に着目すれば「緊張」でもいいだろう。文脈的には数行前の「何、ふざけたこと言ってるんだと思われないだろうか？」に着目して「心配」や「不安」でもいいだろう。あとは「ふざけたこと」の中身を具体的にすればおおむね答えに近づく。

10 問8で注目した「何とかするんだ」を覚えていれば、関連のあることがわかるだろう。